

地元で育った木を使い、大工がつくる

北の民家モデル

住み継ぐ住まいを北海道に。

開拓のため北海道に渡ってきた先人たちは、北海道の木を使って、
住み慣れた「内地」型の住宅、「民家」を建てました。

北海道の酷寒の冬。人々は寒さに震えながらもからだ寄せ合い
ひとつ囲炉裏を囲んで家族の絆を確かめながら暮らしていました。
かつて北海道にあった、そんなおおかで家族に優しい住まいを
現代の技術でよみがえらせる「北の民家モデル」。

これは、北海道の気候・風土に適した民家型住宅の提案です。

New Traditional Style

北の民家モデル

事務局／NPO法人 北の民家の会 〒005-0864 札幌市南区芸術の森1丁目 札幌市立大学デザイン学部 羽深研究室 TEL.011-592-2300 FAX.011-592-2618 <http://www.wan-inc.com/~kitamin/>

北の民家モデル

発行／北の民家モデルプロジェクトチーム

事務局／NPO法人 北の民家の会
〒005-0864 札幌市南区芸術の森1丁目
札幌市立大学デザイン学部 羽深研究室
TEL.011-592-2300 FAX.011-592-2618
<http://www.wan-inc.com/~kitamin/>

「北の民家モデル」9つの特徴

1 大黒柱のある骨太な構造

鍛えられた道産木材を使い、仕口・継手といった大工の技と、骨太の木組みで家を支える長寿命構造。大黒柱がその象徴となります。

2 薪ストーブのある居間を中心に

家の、そして家族のかなめとなる居間。北の民家モデルでは、薪ストーブを設置した居間を中心に、家族が集いやすい間取りを提案します。

3 吹き抜けのある家

家の中心に吹き抜けを配置。吹き抜けにより空気が循環して家全体の温度環境を保つとともに、上下階のつながりが家族の一体感を高めます。

5 大きく丈夫な屋根

シンプルで大きな屋根も北の民家モデルの特徴。耐久性の向上をはかり、太陽光パネルの設置なども可能にしています。

6 「北方型住宅ECOモデル」相当の高気密・高断熱

北海道庁が推奨する、安心で高性能な家が「北方型住宅ECOモデル」。北の民家モデルも同モデル相当の国内最高水準の断熱・気密性能を確保します。

7 世代を越えて住み継いでいける「長期優良住宅」仕様

ながく住み継いでいくために国が定めた「長期優良住宅」の仕様を踏まえるとともに、北海道の材料と技術にこだわります。

8 除雪を少なくする工夫

住宅とカーポート、屋外倉庫、堆雪スペースなどを一体として考えることで、除雪が必要な面積を少なくしていきます。

9 「まち並みと調和」する住宅デザイン

私たちの家、そして街が北海道の自然と調和していくように。一棟の建物のみを考えるのではなく、街並みや敷地を考えたデザインとします。



骨太・長寿命の木造軸組
(北の民家コンセプト模型)



大工の技と木組み(横架材接合部を手刻みとした軸組の施工)



品質の優れた道産木材を選び、
適材適所に使用



北の民家の完成(栗山町)



室内側は構造材現しの「真壁造」とし、床は蓄熱床や無垢材の床などの仕様に。さらに大工工事による造作棚など木工事の比率を高めることで、職人の手仕事による味わい深い空間が生まれます。

北海道に豊富に蓄積しているカラマツ、トドマツ、道南に見られるスギなどの針葉樹材は、乾燥技術等の進歩により建築に適した木材となっています。また「伐ったら植える」適切な森林管理が行われている道産材で家を建てることは、二酸化炭素を削減することにもつながります。

道産木材を「**現し**」で使用する

おおらかで優しい北の住まいを、 伝承の技術と最新の科学で。

北海道の住宅は、過酷な冬を克服しようと進化してきました。

しかし、高断熱・高気密に重点を置いた結果、新しい住まいの提案がおろそかになっていました。

民家ならではの、家族に優しくおおらかな住まい。それを現代の技で再構築する。

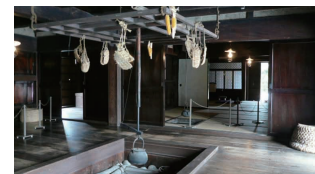
北の民家モデルは、北海道のこれからに向けた住まいの提案です。

北海道の「民家」とは

明治時代、北海道には開拓のために大勢の人々が移住してきました。人々が苦勞して建てた家は、故郷の住まいを模した和風の家でした。それらの家は、温暖湿潤な「内地」に適した開放的な造りになっており、こうした家で過ごす北海道の冬は厳しいものでした。居間の囲炉裏だけでは、住居全体を暖めることができなかったからです。

以来北海道では、暖かく冬を過ごすことを目的として家づくりの改良が行われていきます。その結果、当時とは比較にならないほど断熱性能の高い住宅が建てられるようになりました。同時に住まい方の欧米化が進み、家が単なる個室の集合体になってしまったことも否定できません。

家は、人が暖をとる場であるだけでなく、家族が一緒にいて暮らす「住まい」です。北海道に渡ってきた先達が寒さに耐えながら大事にしていたのは、家族が一同に集い語らえる、住まいとして



旧岩間家住宅(北海道開拓の村)

の家でした。家族を大きく包みこむ開放的な空間を持った住まい。それは「内地」で受け継がれてきた民家の継承でもありました。

北海道に「北の民家」を

北海道にかつてあった、家族全員が集い団らんできるおおらかな住まいを、現代の技術で、未来を見据えて新しく復活させること。それが私たちの提案「北の民家モデル」です。

国が定めた長期優良住宅仕様を踏まえ、道が推奨する最新の寒地建築技術に基づきながら、北海道の風雪の中で育った地元の木材を用い、大工職人の技を十二分に発揮させて、世代を超えて住み継いでいける、家族に優しい住まいを北海道の家として実現する。そんなさまざまなコンセプトを昇華させた「北の民家モデル」。その特徴を次頁にまとめます。



薪ストーブのある居間での団らん